

図書館通信

日大鶴ヶ丘高校図書館 第3号 令和2年5月発行

図書館部主任より



水無月6月、いよいよ「分散登校」が始まりました。ほぼ3ヶ月ぶりの登校です。覚えています

か、3ヶ月前のことを。2、3年生の皆さんには2月29日、臨時登校をしてもらい、慌ただしい中、教科書などを持ち帰ってもらいました。1年生の皆さんはそれぞれの中学校で、それぞれの卒業式をしてもらい、高校入学を胸膨らませて待っていたと思います。どんな3ヶ月間だったか振り返って見ましょう。

さて、分散登校が始まってすぐにも今までどおり、というわけには行かないことは、皆さんも予想していると思います。図書館としても学校と連携しつつ、段階的に通常の利用が出来るようにしていきたい、と考えています。それまでの間もう少しご辛抱をお願いします。

図書館紹介・・・その2「新着図書コーナー」

図書館に入って正面、最も目立つところが「新着図書コーナー」です。早速紹介します。でもその前に。

今年度から新着図書コーナーの隣に、新しいコーナーを作りました。題して「〇〇先生の本屋さん」。〇〇には本校の先生方の名前が入ります。先生方に本屋さんになってもらい、本棚3段分ほどのスペースをお店に見立てて、感銘を受けた本やおすすめ本など、とにかく本への思いを展示してもらおうコーナーです。

記念すべき最初の書店員は川原容子校長先生。先生にはすでに書店員に扮したエプロン姿で写真を撮ってもらっています。新年度の始まりと同時に開店する予定だったのですが、新型コロナの関係で、現在は開店準備中です。開店しましたら、ぜひお立ち寄りください。

新着図書は、教員の推薦文や生徒のポップなどがつけられたり、司書の方により、本の帯を活用した紹介文が



つけられたりして本棚に並びます。もちろん全ての本は並べきれません。そこで新着図書の全てを一覧表にして校内に展示したりしています。

さあ、どんな本たちが並んでいるか見ていきましょう。



『巨人覚醒 上下』シルヴァン・ヌーヴェル作品 佐田千織訳 創元 SF 文庫

『重力波は歌う』ジャンナ・レヴィン作田沢恭子・松井信彦訳 ハヤカワ・ノンフィクション文

『異教の隣人』釈徹宗 晶文社

『時砂の王』小川一水 ハヤカワ文庫JA

『沈黙のパレード』東野圭吾 文藝春秋

『風神雷神 上下』原田マハ PHP研究所

『いなくなれ、群青』河野 裕 新潮文庫

『化石になりたい』土屋 健 芸術評論社

『生命式』村田沙耶香河出書房新社

『ある晴れた夏の朝』小手鞠るい 偕成社

『詩を書くってどんなこと?』若松英輔 平凡社

『はじめてのエシカル』末吉里花 山川出版社

『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』

大阪大学ショセキカプロジェクト=編 日経ビジネス人文庫

『2020年からの新しい学力』石川一郎 SB新書

『学校に行きたくない君へ』全国不登校新聞社 ポプラ社

『檸檬』梶井基次郎+げみ 立東社

同シリーズの『女生徒』太宰治・『猫町』萩原朔太郎・『蜜柑』芥川龍之介など・・・

『グレタ たったひとりのストライキ』マレーナ&ベアタ・エルンマン作羽根由訳 海と月



まだまだありますが、このへんで。前回は思ったのですが、本当はそれぞれの本につけられた**コメント**も紹介したいのです。スペースの都合で割愛しました。気になる本があれば、ネットで検索してみてください。そしてその本の情報を知った上で、どんな**思い**から先生方や司書さんはこの本を推薦したのか、皆さんなりに**想像**してみてください。

今回紹介した本は、昨年度末のもので、現在図書館は休館中。一日も早く今年度の新着図書を迎え入れたいものです。購入予定のリストは出来ています。

次回は「**鶴高生がどんな本をよんでいるか**」を紹介します。

目 読書を通して考えよう

皆さんは、読書となると必ず「本」を読まないダメだと思っているかもしれません。でもなかなか本を読むのが苦手…と、手が出ない人もいるかもしれませんね。今回のこの「新型コロナ」で大きく変わり、分からないことだらけの世の中を「**教科書**」から読み解くことはできないでしょうか？

例えば、ウイルスについては「**理科**」コロナ対策の日本の行政の動きは「**現社や政経**」感染者の増減や陽性率などは「**数学**」、海外のコロナの報道は「**英語**」で。また、この感染症の問題は人間の歴史と大きくかかわっています。この感染症と人類の歴史を「**日本史・世界史**」から。そして私たちの健康が守らなければいけません。その健やかな体を作るために「**体育・保健**」「**家庭科**」の役割がとても大切です。そして、この不安な世界の中で、心の健やかさを保つには「**音楽・美術**」。こうしてみると、普段の学校で学んでいる学問からたくさんの気づきがあるのではないのでしょうか？

それに、文学からも**現在を予測**しているような作品を見つけることができないのでしょうか？当時の作者が未来を予測することで書かれたわけではないのですが、**その当時の社会の問題等**から触発

され作られた作品を読むと、人類の抱える問題は昔からそんなに変わっていないのかもしれませんが。例えば、今とても話題になっている「**ペスト**」**カミュ**著は、まさに今の世の中を予見したような作品です。しかしそこにあるメッセージを読み解くことで、自分の生き方のヒントになるかもしれません。また、**日本映画の「シンゴジラ」**は東京を未知の生物ゴジラが襲います。このゴジラ



がコロナウイルスだと思って観てみるとまた違う目線で作品を味わうことが出来るかもしれませんよ。

このように、肩の力をぬいて身近なものから、自分が取り組みやすいものから楽しんでみたらどうでしょう、また**活字ではない媒体**でも作品を楽しむこともできますよ。映画やドラマから興味を持って作品を読んでもみると、読みやすいかもしれません。

この機会に、たくさんの作品に触れて、いろいろな人の感じ方や考えを知る良い機会にしてみてください。

追記：おすすめの番組です。**Eテレ**（毎週月曜 10：25～）『**100分で名著**』は難しい本を分かりやすく楽しく解説してくれます。なかなか本を読むのが難しい人も楽しめます。最近「**ピノキオ**」「**平家物語**」を取り上げていました。「**ピノキオ**」は当時のイタリアの社会や児童労働の問題が隠されていました。「**平家物語**」は当時の平家の栄枯盛衰を読み解くことが出来ました。HPでは今までの**アーカイブ**を見ることが出来るのでちょっと覗いてもいいかもしれませんね。

<https://www.nhk.or.jp/meicho/index.html>

Eテレ『100分で名著』HP



目 編集後記

「図書館通信」もなんとか第3号まで漕ぎ着けました。外出自粛中の皆さんに、少しでも**読書の世界**を広げてもらいたいという気持ちで出港しました。今のところ順調に航海を続けています。「**読書を通して考えよう**」のコーナーもぐんと視野が広がり、考える材料は身近にたくさんあることを教えてくれています。例えるならば、**羅針盤**です。高性能の羅針盤を手にして、さらに航海を続けて行きましょう。でも忘れないでください。自分の羅針盤のバージョンアップは、自分自身でやらなくてはいけないことを。

